

銅賞 国京 佳史君

札幌建築デザイン専門学校建築工学科 活気と日常の狭間 -グラデーシヨンの集合体-

日常見かける何気ない風景から問題点を取り出し、現地調査によりその事実を確認していくという都市と建築への誠実な取り組みに好感をもった。また、数学的操作により巧みに立体グリッドの中に集合体を作り出す手法、グラデーシヨンを表現するように密度を変えたファサードデザインなど建築の空間を形成する論理と表現に秀逸なものを感じられた。一方で住戸プランが単調に感じられる点、具体的な生活や活動のイメージ表現がやや不足していることが課題として挙げられた。高いプレゼンテーションの質などを総合的に判断して銅賞にふさわしい作品であると判断された。

(文責：小倉 寛征)

